

環境検討部会（第 11 回）議事概要（案）

1. 日 時：令和 3 年 3 月 2 日（火） 1 3：3 0～1 6：1 5

2. 場 所：道の駅思川 小山評定館

3. 出席者：別紙のとおり

4. 議事概要

本部会で検討した内容は、（1）今回決定した事項、（2）今後検討・確認する事項に分けて整理する。

（1）今回決定した事項

◆品川幹線排水路合流部の落差工について

（委員）

品川幹線排水路合流部では、必要性の検討の結果、水路魚道の設置を行わないこととする。

（2）今後検討・確認する事項

◆ナガエミクリの移植・モニタリングについて

（委員）ナガエミクリの移植については、4 月時点の地下茎を含めた生育状況を確認の上、生育が認められない箇所に新たに移植して、R1 年度の移植試験で成績の良かった石・砂利で保護することを基本に実施することとし、生育状況・モニタリング計画を事前に青木委員に相談した上で、次回の検討部会で報告すること。また、10 月以降も水がなくならないよう可能な限り配慮すること。

（委員）

モニタリングにおいては、底質の粒径分布や流速等のパラメータも測定し、石・砂利による保護の効果について検証してはどうか。

◆生物調査について

（委員）

工事前及び工事後の環境を評価するため、調査データを統計的に解析、検証することも検討されたい。

（委員）

ワンド内の井桁やふとんかごの機能の確認のため、石倉カゴ等移動できるふとんかごのようなものを利用し、石の間隙に生息する魚類等を確認する調査を行ってはどうか。

(委員)

ワンド地点の水深が深い場合は、四手網を利用した調査を行ってほしい。

(委員)

西部幹線排水路で確認されるタイリクバラタナゴ(外来種)の産卵母貝となるイシガイ類の確認のため、環境DNA調査等の他の調査方法も可能な範囲で検討されたい。

◆西清水川支線排水路合流部の落差工について

(委員)

かんがい期の水深等のデータについては、代かき期前、魚類が動き出す前の早い時期に調査されたい。

◆開口部の構造について

(委員)

砂質土下部の材料については、単粒度碎石にこだわらず現場発生土等の材料の使用も検討すること。また、吸出防止材の有無や砂質土の深さについてもナガエミクリの根の長さ等を考慮して検討すること。

(委員)

開口部へのナガエミクリの移植場所や密度については、来年度のモニタリング結果を踏まえて検討すること。

◆曲線部の環境配慮護岸について

(委員)

護岸の構造について、井桁のみに絞り込む必然性はないと思われる。石積護岸やふとんかごを組み合わせる等、選択肢を広げて検討してもよいのではないか。